

令和6年度 江戸川区立小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	生きる力を養う ○考える子（確かな学力） ○思いやりのある子（豊かな心） ○元気な子（健やかな体）	目指す学校像 ○「成長」のある学校、「信頼」のある学校、「使命」のある学校 目指す生徒像 ○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもった児童 目指す教師像 ○生きる力を養える教師 保護者・地域を共感させられる教師
前年度までの本校の現状	成果 開校140周年・新校舎落成記念の取組による地域・保護者連携の深化、学習指導要領に基づく学習指導の重点化と研究推進並びに教育課題実践推進校の発表、いじめ・不登校に対する組織的対応の充実、組織的学校の運営と働き方改革に基づく取組の充実	課題 学習指導要領に基づく思考力等の育成の具現化、あいさつや基本的な生活習慣の定着のための学校・家庭・地域の連携、教職員の自律的組織的学校の運営の定着と、働き方改革の一層の推進、コロナ禍の教育活動と学校運営の推進

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	・ICTを活用した学びの充実。 ・放課後補習教室の取組の充実	・全学級1日1回以上活用 ・放課後補習教室への登録率80%	B	B	B	ICTを活用した授業を毎日実施。放課後補習教室の登録率が課題であったが、後期は定員に達する登録率となった。	B	教員は積極的に活用している。タブレットの活用法や使用マナーについても指導を充実させてほしい。	B	放課後補習教室と学校とが連携し、児童の意欲を高めることで後期の参加率が上昇した。	A	学校公開等において積極的に活用して学習している様子が見られた。	学級担任と連携し、学習カード等で記録を残すなど児童の意欲を高める工夫をしていく。
	○授業改善の推進	・思考力表現力判断力等を養う問題解決的な学習「小岩小授業モデル」の推進	・全教員の授業公開学期に1回以上	B	B	B	問題解決的な学習の質的向上を目指し、発問の精選や自発的に取り組める活動の設定を意識し、授業改善を進める。	B	児童同士が話し合いながら学習する様子が見られた。継続してこのような学習を実践してほしい。	A	主に算数科の研究を通して、主体的に問題解決を促すような発問や学習活動の工夫を実践できた。	A	教師の問や教材がよく考えられ、児童が意欲的に学んでいるように感じられた。	継続して算数科の研究を深め、授業改善を児童の学力向上につなげていく。
	○読書科の更なる充実	・問題解決的な学習と運動した人や社会、自然に関する探究的な学習活動の全学級実施	・探究的な学習活動の実施、全学級学期に1回	B	B	A	校内図書館や、小岩図書館と連携しながら探究的な学習活動の充実を図る。	A	学習発表会の児童の発表内容が素晴らしかった。よく調べて上手にまとめている、学年の段階にあった内容であった。	B	読書科と他教科を横断的に取り組めるように工夫したが、より探究的な学習になるよう計画的に指導する。	A	学習発表会等での発表内容が充実しており、児童がよく調べたと感じている。	読書科のねらいを再確認し、適切な活動になるよう見直しを行う。
体力の向上	○運動意欲の向上に向けた取組の実施、充実	・小岩ムーブ（準備運動版と整理運動版）の全校実施 ・小岩ムーブ（運動遊び版）の全校実施	・体育学習で毎時実施 ・休み時間活用推進年30回	B	B	B	各学級で体育学習時に毎時実施。休み時間の活用に向けて企画をして推進していく。	A	継続することが大切だと思うので、引き続き実践してほしい。	A	小岩ムーブの徹底が児童に浸透してきたため、基本的な体力向上につながった。	A	継続しての指導が児童の安心感と体力向上につながっている。	次年度も引き続き小岩ムーブを毎時行う。
	○個に応じた目標設定による運動意欲の向上	・江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィーク・KOIWA短縄チャレンジの実施	・取組集中期間各学期1回設定 ・体育学習における継続的な指導	B	B	B	取組集中期間に見る児童の意欲の向上が見られた。技能向上に向け、学習カード等の工夫を行う。	A	児童の意欲がさらに向上するよう取り組みを期待している。	B	なわ跳びへの意欲が向上したが、実施方法の改善や取組方法を見直し、より成果のあるものにしていく。	A	児童がすすんでなわ跳びに取り組む様子があり、取組の成果が感じられた。	他校の実践も参考にし、よりよい活動にしていく。
	○健康指導の推進	・歯科保健教育「歯っぴープロジェクト」及び食育の推進	・給食後の歯磨き毎日実施 ・フッ化物塗布、毎週1回実施	A	A	A	昨年度からの継続実施の成果が表れ、歯科検診において虫歯のある児童が減少した。	A	今後も継続して校内で実施しつつ、家庭への啓発も行ってさらなる成果へつなげてほしい。	A	2年目になり児童への定着が見られる。歯の健康への関心も高まっている。	A	今後も継続し、家庭や地域とも連携できるとより効果的になると考える。	未処置児童の減少を目指し、家庭と連携していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の推進	・特別支援教室拠点校、弱視学級、日本語学級配置校として連携した教育	・教職員の情報共有会議、週1回以上 ・特別支援に関する校内研修年2回	A	A	A	毎週木曜日に生活指導夕会を実施。特別支援に関する研修も2回実施し、教職員間での連携につなげている。	A	教職員間で情報共有して、連携した指導が行われることは安心である。	B	さくら学級担任と連携して指導することができたが、研修等を行いより理解を深める必要も感じている。	A	教員と保護者が密に連携して指導している。	校内での研修を充実させ、理解を深め児童の指導に生かす。
	○国際理解教育の推進	・自国文化や他国文化の理解を深める教育の実施	・理解教育を行い、交流や発表の場を年1回以上設定	B	B	B	日本語学級（ふじ学級）と4年生が交流し、他国の文化を理解する機会となった。	B	外国籍の児童も増えてきているので今後も充実させてほしい。	B	外国語の授業だけでなく日本語学級との交流も効果的だった。	B	交流や発表の場を地域や保護者も見ることができると、より波及効果があると思われる。	学校全体で理解教育を実践できるように計画する。
	○OSDGs委員会を中心とした環境保護整備	・各委員会にSDGsの取組実施・発表	・各委員会ごとに実施し、成果や取組を発表する機会の設定年1回以上	B	B	A	9月に開催した学習発表会では全学年SDGsをテーマに学習したことを発表した。	A	SDGsをテーマにした発表会では児童がよく考えて学びを深めていた。	B	SDGsをテーマにするだけでなく、各委員会が自主的に取り組んだものを発表することができた。	A	学校全体でSDGsへの関心を高めることで、児童の意識が変わっていると感じる。	委員会活動を学校全体に広めるため、児童主体での活動を大切にする。
不登校・いじめ対応の実践	○いじめ・不登校対策の実施・充実	・いじめ対策委員会、個別対応会議、学校相談、迅速な指導の実施	・事業発生時速やかに適宜開催	A	A	A	事業が発生した場合、対策委員の教職員を参集して会議を実施。組織的に対応を協議し、迅速に指導につなげている。	A	今後も継続してほしい。必要に応じて関係機関との連携も大切だと思う。	A	管理職、主幹教諭、学年主任等と連携していじめの改善や未然防止につなげることができた。	A	児童間の問題をしっかりと解決するよう、組織が一体となって取り組んでいくれている。	生活指導夕会の在り方を検討し、より迅速かつ組織的に対応できるようにする。
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUの結果を基にした学級経営	・居心地のよい学級とする児童90%	B	B	B	結果を個人面談にて保護者にも通知。個人への指導や学級経営に生かすよう活用している。	A	児童が安心して楽しく生活できる学級を目指してほしい。	B	学級の状態を把握することができたが、適切な指導につなげるために児童理解や指導力を身に付けるようにしたい。	A	児童の様子をしっかりと理解して学級経営をしてもらっている。	問題や課題をどのように解決するか、教員の理解や指導力を向上させたい。
	○小岩小学校スタンダードの全校実施 質的向上	靴揃え 右側歩行 時間行動 あいさつ 環境保護整備の取組	・児童アンケートによる定着率90%	B	B	A	学級指導を中心に児童への定着を図っている。継続指導によりどの児童もできるよう進めている。	A	あいさつをよくする児童が多く、気持ちよいあいさつができていく。	B	今年度も継続して徹底指導ができたが、一部の児童には定着が難しかった。	A	あいさつをはじめ、よく指導が生かされている。	指導が定着している児童を増やそう、さらに工夫をしていく。
学校（園）開かれた地域社会の実現	○学校・家庭・PTA・学校応援団・民生委員等と連携した教育の推進	・学校HPの定期的更新や学校公開等を通じた地域への情報発信	・HP月2回以上の更新 ・各学期学校公開による全学級授業公開	B	B	A	HPの更新を確実に実施するように校内体制を見直した。学校公開では多様な教科の指導が公開できるように調整した。	A	学校公開では、先生たちが工夫した授業を展開していた。	B	HPの更新が遅れたり滞ったりすることがあった。しっかりと情報を発信する意識をもって取り組む必要がある。	A	学校だけでなくHPでの情報発信、学校公開での多様な授業公開が見られる。	定期的に確実に情報発信できるよう徹底する。
	○コミュニティスクールモデル校の取組の推進	・学校運営協議会を開催し、学校と地域が連携した教育を推進	・年3回の開催による評議員評価、肯定的意見80%	B	B	B	10月開催の学校評議員会においてCSマイスターを招いて理解を促進する話し合いを実施した。	B	コミュニティスクールについての理解が深まるよい機会となった。	A	CSのことを理解することができた。また、地域の貴重な人材と生かした学習を計画していきたい。	A	学校評議員会での説明や議論を通して、CSの理解が深まった。	地域との連携で新しい取り組みを始めるように努める。
	○安心・安全な学校づくり	・多様な避難訓練、警察等と連携した安全に関する教育、食物アレルギーに係る迅速かつ的確な対応	・保護者アンケート肯定的意見90%	B	B	A	小岩警察と連携したセーフティ教室の実施。エビバン所持児童を対象としたアレルギー対応訓練を実施している。	A	今後も安心安全のために必要な訓練等は継続してほしい。	B	多様な避難訓練やエビバンの訓練等実際の場面を想定して行うことができた。	A	食物アレルギーに対する訓練等、学校独自の訓練が行われている。	既存の訓練を見直し、より実態を想定した訓練にする。
教育の展開	○児童自ら進んであいさつができるようになる心の育成	・学校、PTA、地域、近隣校の運動によるあいさつの指導の充実	・保護者、児童、評議員評価90%	B	B	A	校内のあいさつ運動と近隣3校によるあいさつコンクールにより指導の充実を図った。	A	あいさつ標語は立派な作品が多かった。あいさつを促進する取組を継続してほしい。	A	代表委員会や6年生による自主的な挨拶運動も見られ、学校全体にあいさつの大切さが広がった。	A	あいさつ標語を通して学校関係者が増えた。	今後も児童自身があいさつの大切さを感じ進んで行動に移せるようにする。
	○ブルーラビットバンドの活動	・4年生以上の希望者によるバンド活動を通じた音楽活動の充実	・保護者、児童アンケート、教職員評価90%	A	A	A	バンド活動参加児童が増え、4年以上の児童が協力して活動している。区民まつり、三校一園音楽会にて演奏した。	A	様々な行事で活躍していることが素晴らしい。伝統あるバンドなのでこれからも期待している。	A	各活動を通し、校内でも参加したいという児童が増えている。	A	伝統を大切にして、今後もバンド活動の充実を目指してほしい。	児童の活躍の場を設け、児童が誇りに思えるようにする。
	○竹馬活動	・竹馬を通じた異学年交流活動を実施	・児童、教職員アンケート90%	B	B	A	3学期の実施に向け、異学年交流が活発になるように実施案を作成中。	A	学校特有の行事を大切にしながら、上級生と下級生とのかわりを大切にしてほしい。	A	異学年交流を竹馬を通して行うことができ、上級生としての自覚や優しさを養うことにつながった。	A	伝統となってきている活動を継続してほしい。また、下級生に教えることも大切な活動だと感じる。	実施期間を見直し、より効果のある活動へと見直す。